

気をつけよう！ 冬の感染症



RSウイルス感染症

集団流行しやすい感染症。特に1歳未満の乳児がかかりやすく、気管支炎や肺炎を起こす。鼻水やせきなどの症状で始まり、呼吸時にヒューヒュー、ゼーゼーといった音が出る。重症化すると、危険な状態になることも。今年は、過去5年平均の患者数よりも多く見られています。



クルーズ症候群

インフルエンザウイルスなどに感染し、咽頭に炎症を起こすことで発症する。発熱やのどの痛みから始まり、甲高いせきが出る。呼吸が荒くなり、息を吸うときにヒューヒューという音がするのが特徴。吸入器で消炎剤などを吸入して治療する。悪化すると入院が必要になることも。



気管支炎

インフルエンザやかぜの炎症が、のどから気管支にまで進んだ状態。熱が高くなり、たんがからんでゼロゼロという湿ったせきが長く続く。長引くと症状が重くなり、呼吸困難に陥ることも。



肺炎

ウイルスや細菌が肺に入り込み、炎症を起こした状態。インフルエンザや、かぜをこじらせてかかることが多い。かぜの症状のあと、4日以上高い熱が続く、たんが絡んだ湿ったせきをしていたら、肺炎の疑いがある。レントゲンをとって肺炎かどうかを診断する。抗生物質を服用して治療する。状態によっては入院が必要なることも。



溶連菌感染症

A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因となる病気の総称。飛沫で感染する。高熱が出ることもあり、喉のはれ、嘔吐、頭痛などの症状が現れる。首のリンパ節がはれたり、筋肉痛や中耳炎を起こすことも。その後全身に小さな発しんが出たり、舌に白いこけ状のものがつき、3日くらいすると赤くフツフツしてくる(イチゴ舌)。発しんや舌のフツフツが出ず、のどが痛いだけのときもある。抗生物質で治療する。

感染性胃腸炎

ウイルス性の感染によるもの。冬はノロウイルス、ロタウイルスが代表的。主に経口、飛沫感染だが、ノロウイルスの場合は、食品から感染することも。生後半年~2歳くらいの子が多くかかる。激しいおう吐の症状が突然現れ、下痢がそれに続き、発熱もある。激しい下痢が続くので、イオン飲料や湯冷ましなどで十分に水分補給をし、脱水症状にならないようにする。症状は2~3日から1週間程度で治まる。

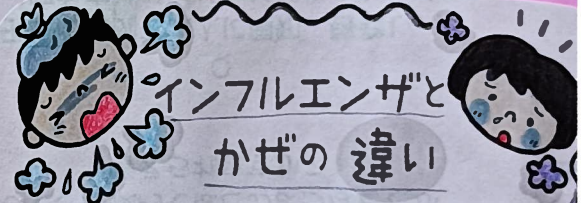
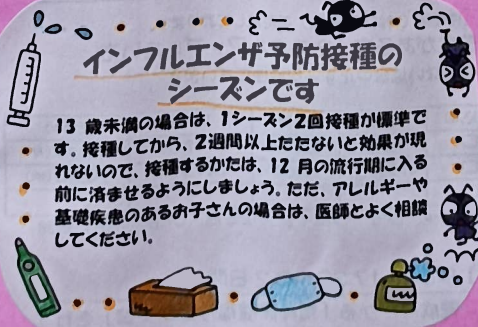
ご心配なこと等
いつでも
お声かけ下さい。
Sprouts.

「かぜ」は油断大敵

鼻やのどにウイルスや細菌が感染し、炎症を起こすものの総称を「かぜ症候群」といいます。軽く済むことも多いのですが、油断をすると悪化して、中耳炎、肺炎、気管支炎など、さまざまな病気を併発することもあります。ちょっと体調が悪そうなときは、無理をせず安静を心がけ、長引かせないようにしましょう。日ごろから、規則正しい生活を送ることもたいせつです。

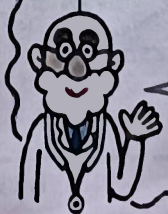
インフルエンザ予防接種のシーズンです

13歳未満の場合は、1シーズン2回接種が標準です。接種してから、2週間以上たないと効果が現れないので、接種するかたは、12月の旅行期に入る前に済ませるようにしましょう。ただ、アレルギーや基礎疾患のあるお子さんの場合は、医師とよく相談してください。



インフルエンザと かぜの違い

インフルエンザ		かぜ
インフルエンザウイルス	原因	細菌、ウイルス
冬から春に多い	時期	一年を通して
全身症状	病気の始まり	鼻水、くしゃみ
39~40℃	熱	37~38℃くらい
大流行することも	伝染	多くの人にうつらない
手足や腰に強く出る	関節痛	ほとんどない
肺炎、気管支炎、インフルエンザ脳症 など	合併症	安静を守ればひどくならない



インフルエンザは、発症し5日を過ぎて、かつ、熱が下がってから3日を過ぎるまでは、園はお休みします